

**Zambia**

学校名：八王子市立上壺分方小学校

氏名：栢之間 倫太郎

〔担当教科：〕小学校全科

● 実践教科等：総合的な学習の時間

● 時間数：17 時間

● 対象生徒：第 6 学年

● 対象人数：29 人（学年 87 人）

1 単元名 伝えよう！みんなで目指す SDGs

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（国立教育政策研究所が例として示したもの）

- ・世界の目標である SDGs への関心・理解を深め、これからの未来を生きる自分や日本の進むべき道を主体的に考える態度を養う。（進んで参加）（つながりの尊重）
- ・収集した情報から SDGs に対して自分の貢献できることを考える中で、グループで協力し、話し合うことを通して、協同的に課題への解決策を考える能力を養う。（他者と協力）（コミュニケーション）（計画性）（多面的・総合的）

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点（国立教育政策研究所・2014）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

（本時において）

- ・自分たちの身近な鉛筆を切り口に、SDGs を連想していく。【1】【4】
- ・個人で思考する時間をとった後、グループで共有し、話し合いをすることで、多角的な考えを持つ。【2】【3】
- ・正解のない課題であることを強調し、どんな意見にも価値があること、小さな考えからも思考を膨らませる重要性を意識させ、話し合いを行わせる。【7】
- ・グループでの話し合いの後に教室前方に集まり、各グループの話し合いの内容を可視化した紙を黒板に張り付けて共有することで、さらに多様な考えを生み出す。【2】【7】
- ・「伝える力」の良い面と悪い面を考えさせ、SDGs を調べ、伝えることの意味をつかむ。【1】

4 単元の指導について

（1）教材観

本校の設定する、総合的な学習の時間における国際理解の領域の「世界と日本のつながりを考えよう」を基に、本単元を展開した。平成 29 年度の本校教育計画においては実施時期が 1 月から 3 月であり、実施時予定時数も 12 時間のみであったが、全体での協議のもと、9 月からの実施および 17 時間への時数拡大とした。

総合的な学習の時間において重要な要素となる「横断的・総合的な学習」の実現のため、本教材で学習する内容を他教科とも関連付けることを意識した。SDGs の 17 のアイコンをラミネートして黒板にすぐに掲示できるようにし、社会科などの教科でも関連する事項を取り扱う際は張り付けるなど、持続可能な開発という課題意識をもって学習に取り組む機会をできる限り確保した。また、「探求的な学習」の実現のために 2 人～4 人の小グループでの調べ学習を基本とし、全員が主体的に課題に取り組むことができるよう配慮した。

（2）児童観

本学級の児童は、本単元のように世界の課題について調べたり、考えたりした経験が少ない。そのため、本単元の第 1 次においては、しっかりと基本事項を確認するとともに、なぜ世界の課題を知

らべるのかという動機付けを行う必要がある。また、事前に行った聞き取り調査では、世界の課題について新聞やテレビなどのメディアで聞いたことがある児童は多いものの、内容について考えたことがある者、調べたことがある者は非常に少なかった。そのため、本単元の内容は世界の課題へと思考を広げるきっかけであり、その後の人生にも大きな影響を与えるものであるため、意義は大きい。固定観念や偏見を生まず、世界について考える姿勢とそれを支える力を養うため、グループやクラスでの話し合いの機会を多く持ち、多角的に判断できるよう配慮した。

また、第5学年の総合的な学習の時間では、福祉をテーマに今回と同様に調べ学習と発表を行った。そこで児童はポスターセッションとして、各回3人の児童を対象に5回の発表を行い、クラス全体として発表への成功体験を得ている。今回はその経験を踏まえ、対象をクラス全体に広げ、また発表の中に聞き手に考えさせるようなアクティビティを取り入れることとした。前年の発表の良かった点を想起させながら、さらに発表技術を発展させられるよう、指導を意識した。

(3) 指導観

本学級の中には話し合いの中で自分の意見を持ち、それを伝えることに苦手意識を持つ児童が少なくない。そのため、第1時のように全体で理解を深めていく場面では、まず個人で思考を深め、それを文章化してからグループでの話し合いを行うことが有効である。国立教育政策研究所の「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」では、他者とコミュニケーションをとり、協同的に課題解決にあたる力が重視されているため、本単元では個人の時間を十分に取り、必ず一人一人が意見を持った上で話し合えるように配慮した。

また、メディアリテラシーに関する指導は以前の学習から継続してきたが、児童の中にはまだ理解が不十分な者もいる。そのため、情報を収集する際にインターネットを活用する場面では、各テーマに関連した調べやすいインターネットサイトの名称とアドレスを一覧として提供した。また、その一覧に並ぶインターネットサイトの名称を確認し、情報に信憑性の高い団体とはどのようなものかを児童に考えさせることで、個人の意見しか記述されていないインターネットサイトや、出典の不明確な情報などは鵜呑みにしないよう指導した。

5 評価規準

観点	課題発見・解決の能力	学習への主体的・創造的・協同的態度	学び方・ものの考え方	自己の生き方に関わる気付き
評価規準	日本を含む世界の現状と目指すべき姿について、SDGsと関連させて課題を設定し、探究することができる。	情報を適切に収集し、グループで協力して課題への理解を深め、解決しようとしている。	収集した情報から、選択したテーマについて自分たちが貢献できることを考えている。	自分たちや他のグループの発表から学んだことを、自分の今後の生活に生かそうとしている。
評価方法	・学習の様子 ・振り返りシート ・発表内容	・学習の様子 ・振り返りシート	・振り返りシート ・発表内容	・学習の様子 ・振り返りシート ・発表内容

6 単元の構成

時 限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	世界に目を向けてみよう ～目指すべき世界とは、何だろう～	【ザンビア報告会 ～同じところ、違うところ～】 ○世界には日本と文化の異なる国があることを知ること、世界に興味を持つ。	・教師海外研修参加者のザンビア共和国での視察の様子の報告を聞く。 ・衣食住などの文化や、子供を取り巻く様子を日本と比較し、共通点や相違点を考える。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

2		【世界の状況を感じてみよう！】 ○世界の格差を体感し、世界各国で様々な課題があることを知る。	・世界の人口や、言語についてのクイズで、世界への関心を高める。 ・5つのグループに分かれて、世界の富の分配をお茶の量で体感する。 ・「世界がもし 100 人の村だったら」を読み、当てはまる数や言葉を予想する。
3		【幸せな世界ってどんな世界？ ～SDGs～】 ○自分たちの考える幸せな世界の定義を共有し、それを目指す国際的な目標（SDGs）があることを知る。	・幸せな世界とは何かを、「〇〇がある世界」「〇〇がない世界」という形で考え、意見を交流させる。 ・SDGs の 17 のイラストの意味を推測し、自分たちの考えた幸せな世界の定義と結びつける。
4		【SDGs について知ろう！】 ○SDGs の概要について調べることで、世界の目指す目標を知る。	・ユニセフの提供する「学校のための持続可能な開発目標ガイド」で、SDGs の 17 の目標について調べ、まとめる。
5		【どうして SDGs を調べるのだろう…】 ○SDGs について知ること、世界の目指す目標を知り、探求したいと感じる対象を得る。	・教室に落ちていた鉛筆から、関連しそうな SDGs を考える。 ・自分の行動で、世界が良くなったり、悪くなったりすることを考える。 ・伝える力について考え、SDGs を調べ伝えることに目的意識を持つ。
6	調べよう！ SDGs	【調べる大テーマを選択しよう！】 ○自分が興味を持った SDGs の目標をもとに、自分の調べたい大テーマを選ぶ。 ○グループでさらに調べたい内容を話し合って考える。	・自分が興味を持った SDGs の目標を念頭に、5つの大テーマから自分が調べたい大テーマを選択。 ・同じ大テーマを選んだ中で、3～5人のグループを作り、大テーマの中でさらに調べたいテーマを話し合う。 * 正しい情報を得るための調べ方を知るために、書籍や信頼性のあるインターネットサイトの活用方法を知る。
7	7 8 9 10 11 12 13	【伝えるために調べよう！まとめよう！】 ○選択したテーマについて探求し、まとめながら発表の準備を行う。	・選択したテーマについて ①内容 ②SDGs との関連 ③日本と世界の現状 ③取り組み例 ⑤自分達ができること を中心に調べ、発表に向けてまとめる。 ・正確な情報を収集し、ポスターに視覚的にわかりやすくまとめていく。 ・聞き手が体験的に学ぶためのアクティビティを企画し、伝えるということを意識する。 ・聞き手に伝わりやすい原稿を作成する。
14 15	伝えよう！ SDGs	【クラス発表会】 ○探求したテーマについて、クラスの他の児童に伝える。 ○互いのグループの発表を聞き、様々な角度から SDGs への理解と課題意識を養う。	・調べたテーマについて、アクティビティを交えた体験的な学びとして他の児童に伝える。 ・発表を聞いた児童は、質問をし、ふりかえりを行う。 * 発表内容の完成度や発表方法の効果などに基づいて、代表グループを投票で決定する。

16		【学年発表会】 ○クラス代表の発表を聞き、さらに様々な角度からSDGsへの理解と課題意識を養う。	・各クラスの代表グループが発表を行う。 ・発表を聞いた児童は、質問をし、ふりかえりを行う。
17	学習のまとめ	【自分の中の変化を考えよう ～SDGsを学んで～】 ○今までの学習や他の児童の発表を振り返り、自分の変容を捉える。	・今までの学習の振り返りや、他の児童の発表への感想を見ながら、世界の課題や国際協力について、自分の意識の変化を振り返り、文章に表す。 ・今後自分が行動したいこと、意識していきたいことを改めて考える。

7 授業事例の紹介

小单元名 【 どうして SDGs を調べるのだろう・・・ 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月17日(火) 第6限

(イ)実施会場 6年2組 教室

(ウ)本時の目標

自分たちの身近な課題からSDGsを考えていくことで、日本国内にも課題があること、自分たちの行動が世界に少しずつ影響を与えていくことを、話し合いによって捉える。

(エ)指導のポイント

思考の広がりを重視し、あらゆる可能性を考えるために、児童の発言に多少の論理の飛躍があったとしても、まずは認めること。授業後半で適宜情報の修正や追加をし、極端に間違った価値観が生まれないようにすること。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
	・SDGsを学ぶ理由を考えるとというめあてを持つこと ・1つの事象が様々なSDGsと関連していること ・日本にも多くの課題が存在していること ・それぞれに多様な考え方があり、その全てに価値があること	○前時までを振り返る。 ○本時のめあてを知る。 ○教室の折れた鉛筆の写真から、関連するSDGsを考える。 ○自分の意見をグループで交流させ、さらに多角的に関連するSDGsについて考える	個人 グループ	・多様な可能性を重視するため、多少の論理的飛躍は許容し、後に補足修正をする。 ・鉛筆になるまでの木材や、運搬の様子などの写真資料を適宜提示する。 ・後の全体での共有のため、鉛筆の写真とSD	SDGsの課題を身近な例から考えている。 【学習の様子】 SDGsの課題を身近な例から考えている。 【学習の様子】

	・同上 ・1人の行動が、世界を良くも悪くも変えてしまう力があること ・伝える力は大きな力を持つこと	○全体で意見を交流させ、それぞれのグループの共通点や相違点などから、多様な考えを学ぶ。 ○コップの例から、些細な行動の影響力を考える。 ○本時の振り返りを書き、自分の考えたこと、思ったことを言語化する。	全体 全体 個人	Gsのアイコンを使って考えを可視化する。 ・グループの考えを黒板に貼り、全グループの考えを視覚化する。 ・実物を用い、感覚的な理解を促進する。 ・他のSDGsにおける小さな行動を例に挙げる。	SDGsの課題を身近な例から考えている。 【振り返り】
--	---	---	-------------------------------	---	--

(2) 授業の振り返り

<成果>

- ・教室に落ちていた折れた鉛筆という、児童の身近にある教材を取り上げたため、それがSDGsにつながっているという驚きを伴って、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・正解がないことを強調したため、普段自分の考えに自信を持つことができない児童も、自分なりの考えを少なからず持つことができた。また、個人での思考時間の後のグループや全体での意見交換の際も、互いの意見を否定せず、多角的な視野をもって学びを深めることができた。
- ・児童それぞれが紙面上でSDGsの17のアイコンを操作し、さらに全体での共有の際も大きなアイコンを掲示して考えを視覚化したため、話し合いの流れがわかりやすく、誰もが理解することができた。

<課題と解決案>

- ・鉛筆に関する情報が不足していたため、SDGsとの関わりが推測の域を出なかった。事前に鉛筆の原材料や輸出入のデータなどを分析しておく、さらに深い学びが得られたと考えられる。もしくは補足資料の豊富な教材に変更し、携帯電話などレアメタルに関連するもの、パーム油などを原材料にするものを扱うことも有効であると考えられる。
- ・児童の話し合いの時間を確保することに重点を置いたため、振り返りの時間を多くとることができなかった。2時間構成にするなどの手立てが考えられる。
- ・1人の行動の重要性や伝える力の大きさを考えるためのコップの例が、教師主導で行われてしまった。児童が自分でそれらに気づくことができる手立てが必要。

(3) 使用教材

- ①教室に落ちていた折れた鉛筆(図工室の落とし物を使用) ②SDGsの17のアイコン(児童用・掲示用)



8 単元を通した児童生徒の反応/変化

- SDGsという新たな視点の獲得

本学級の児童は日々自主学習という形で、自分の興味のある事柄を調べノートにまとめている。9月からの本単元の学習からは、SDGsに関連する内容や、自分の調べているテーマの追加学習を行う児童が現れた。単なる学習教材としてではなく、自分たちが考え、行動する価値のあるものとして、SDGsを捉えていると考えられる。また、他教科の学習中も自らSDGsの番号を挙げ、内容の関連を発言する児童も出てきた。本単元の目標の1つであったSDGsの浸透と新たな視点の獲得が、一定の成果を上げていると考えている。また、卒業文集において本単元に触れる児童もあり、今後の生き方にも影響を与えているのではないかと考えている。

○伝えるという行為の重要性への気づき

本単元の成果の発表時には、聞き手に考えさせるようなアクティビティを取り入れることを条件とした。そのため児童はテーマについて調べるだけでなく、どうすれば相手が自主的に考えてくれるか、そのためにはどのような点に配慮して伝える必要があるかなど、授業中の教師のような立場で考えることが必要となった。このことで児童は自分たちの「伝える力」の大きさや意義について体験的に学ぶことができた。以前の総合的な学習の時間のようには与えられたテーマを調べるだけでなく、その行為の意義と責任を感じながら学ぶことができたと思われる。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

< 成果 >

導入の成功

予備知識のない段階からの単元開始であったが、ザンビアでの体験記を第1時としたり、体験的に悩み、学ぶ機会を確保したため、児童の意欲的な調べ学習につなげることができた。

多角的な学びを得られるテーマ分け

児童は最初に、興味のあるSDGsを考えた。その後、「①地球の環境を守ろう ②争いのない世界を目指して ③だれもが健康に生きるために ④自分らしく、豊かな人生を ⑤世界が一つになるとき」という5つの大テーマから、児童は興味のある分野を選択した。さらにその中で小テーマを選択し、2～4人のグループで調べていったため、同じ小テーマを選択したグループ内でも、意識しているSDGsが異なったり、違うテーマを調べるグループが同じSDGsを意識していたりと、様々な角度からSDGsと世界の課題を関連付けて学ぶことができた。

アクティビティを取り入れた発表

発表の条件に、聞き手に考えさせるようなアクティビティをいれたことにより、相手に伝える工夫や、発表そのものの吟味をよく意識することができた。

< 課題と解決案 >

教育計画とのずれ

基となった該当単元の時数が少ないため、他の単元を圧迫した。持続可能な開発についての取り扱う場合は、年間を見通した計画が必須である。

他クラスとの連携不足

小学校において学年全体で授業を展開する場合、他の担任にSDGsに関する情報や授業プランを伝え、理解してもらうために多くの時間が必要となる。(本単元では多大な理解と協力を得られた)また、私自身の情報共有の至らなさのため、学級間で発表の完成度やSDGsへの理解度に差が生まれてしまった。単元開始前の綿密な打ち合わせと、教員自身のSDGsの深い学習が必要であった。

10 教師海外研修に参加して

教師海外研修に参加した教師は、自身の教育観を大きく揺さぶられる。訪問先の教育の現状、教育関係者の熱意、子供たちの無邪気さ。その全てから私たちは「何のために教師になったのか」という、教師人生において最も重要な問いを投げかけられる。そしてその教師が悩みぬいて作り上げた授業によって、(それが決して完璧ではないとしても)子供たちもまた大きく変化する。

本単元はザンビア共和国での教師海外研修で得た、SDGs(持続可能な開発目標)についての理解を基に構築した。第6学年の3人の担任教員で話し合いながら立案し、多くの成果を得ることがで

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

きた。しかし、同時に多くの課題があったことも事実である。多くのそれらの課題の中で、私が最も解決に向けて努力したのが、「実際に見聞きし体験した者と、それを伝え聞いた者の差を埋める」ということである。これはザンビアで働く JICA 関係者の言葉であり、貴重な機会を得てザンビアで学んだ私の責任とも言えることであった。いかにして子供に世界の課題を自分のことのように考えさせ、自分にできることを考えようと意欲づけするか。その点を常に考えていたように思う。

悩み多き単元であったが、私自身と児童の収穫もまた計り知れないほど多かった。ぜひ1人でも多くの教員にこの研修に参加し、大いに悩むことを通して、自分を、児童を、変えてほしいと思う。